徳島県における
令和８年度全国学力・学習状況調査の
結果について

徳島県教育委員会　義務教育課

1　令和８年度全国学力・学習状況調査の実施状況及び結果概要

1　実施日

令和８年４月 23 日（木）（小学校国語・算数、中学校国語・数学）

※令和８年４月 23 日（木）以外の調査日

・小学校児童質問調査	令和８年４月 24 日（金）～５月８日（金）のうち、あらかじめ決定した実施日
・中学校英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」 ・中学校生徒質問調査	令和８年４月 20 日（月）～23 日（木）のうち、あらかじめ指定された１日
・中学校英語「話すこと」	令和８年４月 24 日（金）～５月 29 日（金）のうち、あらかじめ指定された１日

2　本県の実施状況（公立学校）

・小学校　157 校　約 5,000 名
　（市町村立：156 校、県立：１校〔特別支援学校１校〕）
・中学校　 78 校　約 5,000 名
　（市町村立：74 校、県立：４校〔中学校２校、中等教育学校１校、特別支援学校１校〕）

3　本県の結果

平均正答率及び平均ＩＲＴスコアは、次のとおりであった。

校種		小学校（第６学年）		中学校（第３学年）				
教科		国語	算数	国語	数学		英語	
							３技能（聞・読・書）	４技能（聞・読・書・話）
問題数		13	16	15	16		22　※１	※２
平均正答率（%）	徳島	60	54	62	56	平均IRTスコア	498	497
	全国	60.9	56.4	63.9	57.0		499	499

※１　中学校英語「読むこと」「書くこと」「聞くこと」の問題数 22 問は、
　　公開問題 16 問中 10 問と非公開問題 12 問をあわせたもの

※２　中学校英語「話すこと」の問題数は、
　　公開問題 7 問中 4 問と非公開問題数問をあわせたもの

4　結果概要

・小学校については、国語と算数の正答率がそれぞれ全国平均を下回った。
・中学校については、国語と数学の正答率がそれぞれ全国平均を下回り、英語のＩＲＴスコアも全国平均を下回った。

2　教科ごとの結果分析

1　小学校　国語

学習指導要領の内容	知識及び技能			思考力、判断力、表現力等		
	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の伝統文化に 関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
徳島（公立）	67.6	49.6		63.4	43.6	63.9
全国（公立）	66.8	52.3		65.8	45.7	65.9

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
徳島（公立）	61.6	57.9	
全国（公立）	62.0	60.1	

問題形式	選択式	短答式	記述式
徳島（公立）	60.0	64.5	52.9
全国（公立）	61.9	62.6	54.9

【正答率が高い上位２問】

	問題番号	問題の概要・出題の趣旨	評価の観点	問題形式	本県	全国
1	２三ア	概　【花山さんの文章の一部】の下線部アを、漢字を使って書き直す（みじか - い）。 趣　学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。	知識・技能	短答式	83.0%	80.0%
2	３三（２）	概　【文章】を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く。 趣　文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。	思考・判断・表現	記述式	76.2%	76.4%

【正答率が低い下位２問】

	問題番号	問題の概要・出題の趣旨	評価の観点	問題形式	本県	全国
1	２四	概　【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く。 趣　引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。	思考・判断・表現	記述式	29.5%	33.5%
2	２三イ	概　【花山さんの文章の一部】の下線部イを、漢字を使って書き直す（ふしぎ） 趣　学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。	知識・技能	短答式	45.9%	45.2%

【結果分析（課題等）】

○学習指導要領の領域「A　話すこと・聞くこと」「B　書くこと」「C　読むこと」の全ての領域において、全国平均を下回った。

○「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の両観点において、全国平均を下回った。

○第５、６学年「思考力・判断力・表現力等」「B　書くこと」の各内容について、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。

〈問題番号２四に関連〉

○第５、６学年「知識及び技能」「言葉の特徴や使い方に関する事項」について、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むことに課題がある。さらに、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うことに課題がある。

〈問題番号２三イに関連〉

【授業改善のポイント】

〈正答率が低かった問題に関連して〉

○　２四に関連して、引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するために、次のポイントが大切である。

・「読み手に納得してもらうために、自分の考えの理由や根拠となる客観的なデータや事例を示す。」など、引用する目的を書き手である児童が自覚できるようにする。

・引用することの意義を確かめるために、引用して書いている文章とそうでない文章を読み比べる。その際、「説得力があるのは、どちらの文章か。」や「著作権を尊重し、保護するためにはどちらの文章がよいか。」などについて、理由を含めて話し合うようにする。

・「なぜ、その部分を引用しようと考えたのか。」や「自分が何を伝えるために引用する部分を選んだのか。」など、自分が書こうとしていることを他者と伝え合い、自分の考えを明確にしたり振り返ったりする場を設ける。

○　２三イに関連して、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと及び、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うために、次のポイントが大切である。

・教師が漢字を使うことの意義を理解した上で、漢字を正しく書けるように指導するとともにＩＣＴ端末の活用等により、正しい漢字を選ぶ機会が増えていることを踏まえて指導する。

・同音異義語の語句や漢字を調べ、その意味を比べる活動を通して、字義の理解や漢字を使うことのよさを実感できるようにする。

・へんやつくりなど漢字の構成など漢字の形から意味を想像する活動を通して、漢字の表意文字としての特徴やそのよさに気付けるようにする。

・同じ構成になっている語句を集めて語句の構成を理解する活動を設定する。

〈児童質問調査と国語の正答率のクロス集計に関連して〉

○　全国（国・公・私立）及び本県（公立）において、「５年生までに受けた授業では、国語の授業で、文章などを引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていましたか」という質問に肯定的な回答をした児童ほど、国語の正答率が高い傾向にある。

○　全国（国・公・私立）及び本県（公立）において、「５年生までに受けた授業では、国語の授業で、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめていましたか」という質問に肯定的な回答をした児童ほど、国語の正答率が高い傾向にある。



これらのことから、事実や知識と自己の考えや主張を明確に区別しつつ、発話や文章の構造、因果関係などを整理して、それらを結び付けて筋道立てて分かりやすく示す活動が大切である。さらに、目的に応じて文章を読んだり、多様な情報や意見の妥当性・信頼性を確かめながら読んだりすることで、文章を評価したり、熟考したりすることも重要である。

※徳島県のクロス集計のデータ等については文部科学省国立教育政策研究所ＨＰを参照ください。

2　小学校　算数

学習指導要領の領域	A　数と計算	B　図形	C　測定	C　変化と関係	D　データの活用
徳島（公立）	59.3	50.4	75.6	37.6	47.2
全国（公立）	61.1	55.3	78.1	41.1	48.6

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
徳島（公立）	57.2	43.5	
全国（公立）	60.1	45.4	

問題形式	選択式	短答式	記述式
徳島（公立）	53.0	56.7	47.4
全国（公立）	56.0	59.7	48.5

【正答率が高い上位２問】

	問題番号	問題の概要・出題の趣旨	評価の観点	問題形式	本県	全国
1	3（1）	概　１、５、９の３枚のカードを当てはめてつくることのできる最も大きい数を書く。 趣　小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを　理解し、条件に合う小数をつくることができるかどうかをみる。	知識・技能	短答式	94.2%	94.5%
2	4（2）	概　昔遊びの計画を見て、全体で使える時間の中で、「前半」に使える時間は何分間かを書く。 趣　示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができるかどうかをみる。	知識・技能	短答式	75.6%	78.1%

【正答率が低い下位２問】

	問題番号	問題の概要・出題の趣旨	評価の観点	問題形式	本県	全国
1	4（3）	概　二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と、前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数を書く。 趣　二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる。	知識・技能	短答式	16.1%	17.9%
2	2（4）	概　赤いテープの長さが、白いテープの長さの１．５倍になっている図を二つ選ぶ。 趣　基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる。	知識・技能	選択式	30.1%	34.2%

【結果分析（課題等）】

○学習指導要領の領域「A　数と計算」「B　図形」等の全ての領域において、全国平均を下回った。
○「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の両観点において、全国平均を下回った。

○第４学年「A　数と計算」及び第５学年「C　変化と関係」の領域について、示された基準量と割合から、比較量を捉えることに課題がある。　**〈問題番号２（４）に関連〉**

○第４学年「D　データの活用」の領域について、二次元の表から、条件に合う数を読み取ることに課題がある。　**〈問題番号４（３）に関連〉**

【授業改善のポイント】

〈正答率が低かった問題に関連して〉

○　２（４）に関連して、示された基準量と割合から、比較量を捉えることができるようにするために、次のポイントが大切である。

・基準量に対し、多様な比較量がどの程度に当たるかを図を通して捉えられるようにする。

・整数倍（２倍、３倍）との比較を経て、１倍、１．５倍、２．５倍等の意味を順を追って理解できるようにする。

・基準量の大きさを変えた活動を重ね、１．５倍に当たる量は基準量を１と見たときの１．５に当たる量であることを捉え、割合の理解を深められるようにする。

○　４（３）に関連して、二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるようにするために、次のポイントが大切である。

・表から条件に合う数を読み取る際、二つの条件を順番にたどったり、読み取った数が何を表しているか、その数の意味を正しく捉えたりすることができるようにする。

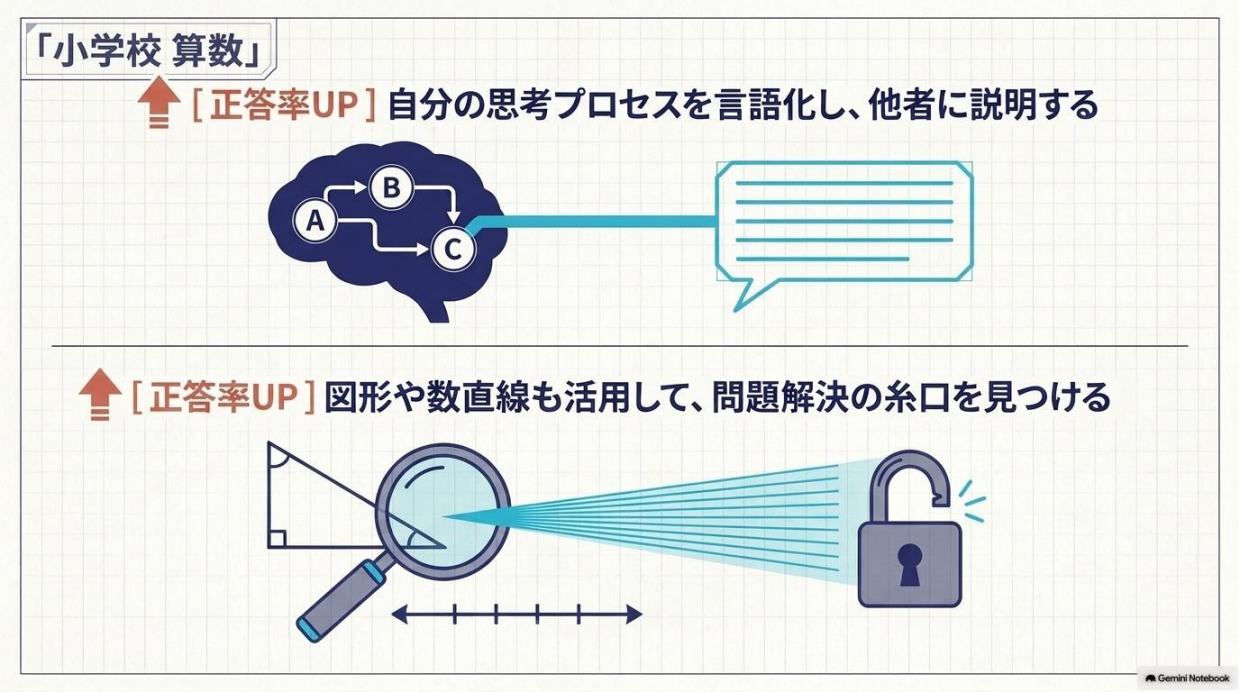
・合計はその行や列の数を合わせた数であることを押さえ、「合計欄」の意味について理解できるようにする。

・表を自ら作成する活動を通して、データを二つの観点から分類整理する方法について理解できるようにする。

〈児童質問調査と算数の正答率のクロス集計に関連して〉

○　全国（国・公・私立）及び本県（公立）において、「５年生までに受けた授業では、算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか」という質問に肯定的な回答をした児童ほど、算数の正答率が高い傾向にある。

○　全国（国・公・私立）及び本県（公立）において、「５年生までに受けた授業では、図形や数直線など図が示された問題では、問題を解くときに図が役に立つと思いましたか」という質問に肯定的な回答をした児童ほど、算数の正答率が高い傾向にある。



これらのことから、単に答えを出すだけでなく、「どのように考えたか」という思考の過程を言葉で説明し合う活動を日常的に取り入れることが大切である。【中学校数学と共通】

さらに、児童が問題の条件を整理する際に、自ら進んで図や数直線をかいて見通しをもち、答えを導き出せるよう、図や数直線を活用することの便利さやその効果を実感できる指導を継続することも重要である。

※徳島県のクロス集計のデータ等については文部科学省国立教育政策研究所ＨＰを参照ください。

3　中学校　国語

学習指導要領の内容	知識及び技能			思考力、判断力、表現力等		
	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の伝統文化に 関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
徳島（公立）	62.3	66.5		62.5	64.7	56.8
全国（公立）	63.0	70.4		63.9	67.4	59.7

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
徳島（公立）	63.0	61.3	
全国（公立）	64.2	63.7	

問題形式	選択式	短答式	記述式
徳島（公立）	70.4	55.6	43.2
全国（公立）	72.7	55.8	45.5

【正答率が高い上位２問】

	問題番号	問題の概要・出題の趣旨	評価の観点	問題形式	本県	全国
1	３二	概　気持ちがより伝わるように、表現を工夫して書く。 趣　表現の効果を考えて描写することができるかどうかをみる。	思考・判断・表現	短答式	90.9%	92.3%
2	１三	概　「ら抜き言葉」であるものを選択する。 趣　単語の活用について理解しているかどうかをみる。	知識・技能	選択式	85.4%	85.4%

【正答率が低い下位２問】

	問題番号	問題の概要・出題の趣旨	評価の観点	問題形式	本県	全国
1	４二	概　国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す。 趣　語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる。	知識・技能	短答式	30.4%	35.2%
2	４四	概　二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く。 趣　文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる。	思考・判断・表現	記述式	36.8%	38.9%

【結果分析（課題等）】

○学習指導要領の領域「A　話すこと・聞くこと」「B　書くこと」「C　読むこと」の全ての領域において、全国平均を下回った。

○「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の両観点において、全国平均を下回った。

○第１学年「知識及び技能」「⑴ 言葉の特徴や使い方に関する事項」について、「ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の 意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること」に課題がある。

〈問題番号４二に関連〉

○第１学年思考力・判断力・表現力　「C　読むこと」の領域について、「オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすること」に課題がある。

〈問題番号４四に関連〉

【授業改善のポイント】

〈正答率が低かった問題に関連して〉

○　４二に関連して、語句の文脈上の意味を正確に捉えるためには、辞書を活用して語句の意味や使い方に対する認識を深めた上で、文章中の語句と語句との関係を捉えることによって、文章の「構造と内容の把握」や「精査・解釈」を確かにしたり深めたりしていくようにすることが大切である。

○　４四に関連して、文章を読んで自分の考えを確かなものにするために、次のポイントが大切である。

・具体的な場面を思い浮かべ、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことと結び付けるなどして、改めて自分が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返ることができるようにする。

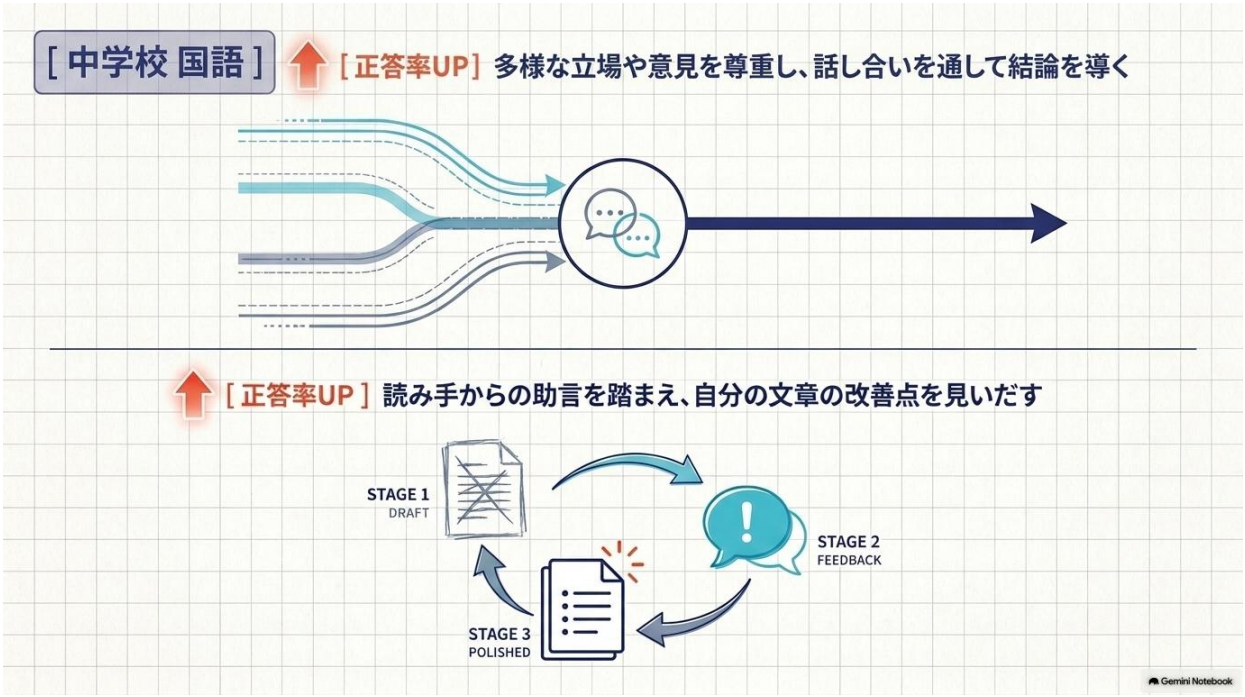
・文章に書かれている大まかな内容について自分の考えを述べることにとどまるのではなく、自分がその文章の内容についてどのように把握したり解釈したりしたかを十分に踏まえ、それを常に確かめながら考えを形成していくようにする。

・文章を読んで理解したことを他者に説明したり、自分の考えやその根拠などを知ったりするようにする。

〈生徒質問調査と国語の正答率のクロス集計に関連して〉

○　全国（国・公・私立）及び本県（公立）において、「１、２年生のときに受けた授業では、国語の授業で、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめていましたか」という質問に肯定的な回答をした生徒ほど、国語の正答率が高い傾向にある。

○　全国（国・公・私立）及び本県（公立）において、「１、２年生のときに受けた授業では、国語の授業で、文章を書いた後に、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしていましたか」という質問に肯定的な回答をした生徒ほど、国語の正答率が高い傾向にある。



**　これらのことから、日常生活や社会生活における他者との関わりの中で、言葉を通して対象を捉え、その捉え方や伝え方などを支える言葉そのものの意味や働き、使い方などを吟味しながら思考、判断、表現する資質・能力を育成することが大切である。**

**　さらに、事実や知識を整理しながら自己の考えや主張の理由や根拠がより伝わるように構成や表現の仕方を工夫することも重要である。**

※徳島県のクロス集計のデータ等については文部科学省国立教育政策研究所ＨＰを参照ください。

4　中学校　数学

学習指導 要領の領域	A　数と式	B　図形	C　関数	D　データの活用
徳島（公立）	67.2	45.9	55.9	52.3
全国（公立）	67.8	48.7	54.8	53.5

評価の観点	知識・技能	思考・判断・ 表現	主体的に学習に 取り組む態度
徳島（公立）	62.5	36.6	
全国（公立）	63.0	39.1	

問題形式	選択式	短答式	記述式
徳島（公立）	57.0	64.4	36.6
全国（公立）	59.3	64.2	39.1

【正答率が高い上位２問】

	問題 番号	問題の概要・出題の趣旨	評価の観点	問題形式	本県	全国
1	1	概　２月３日のＡ市の最高気温が最低気温より何℃高くなったかを書く。 趣　具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことができるかどうかをみる。	知識・技能	短答式	86.4%	85.7%
2	7 （1）	概　動画の時間とデータ量の関係を表すグラフにおいて、点Ｃの座標を書く。 趣　与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる。	知識・技能	短答式	75.7%	75.2%

【正答率が低い下位２問】

	問題 番号	問題の概要・出題の趣旨	評価の観点	問題形式	本県	全国
1	9 （3）	概　「就寝時刻が２３時より前の生徒と比べて、２３時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張できる理由を、悠真さんが調べたことの二つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明する。 趣　データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる。	思考・判断・ 表現	記述式	29.8% 無解答率 34.8%	31.9% 無解答率 28.9%
2	7 （2）	概　データ量が１０００ＭＢになるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を説明する。 趣　数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。	思考・判断・ 表現	記述式	30.4% 無解答率 46.8%	33.9% 無解答率 39.6%

【結果分析（課題等）】

○学習指導要領の領域「A　数と式」「B　図形」「D　データの活用」の領域において、全国平均を下回った。

○「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の両観点において、全国平均を下回った。

○第１学年「C　関数」の領域について、数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。　**〈問題番号７（２）に関連〉**

○第１学年「D　データの活用」の領域について、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することに課題がある。　**〈問題番号９（３）に関連〉**

【授業改善のポイント】

〈正答率が低かった問題に関連して〉

○　７（２）に関連して、数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるようにするために、次のポイントが大切である。

・表、式、グラフなどの「用いるもの」とそれをどう用いたかという「用い方」に着目し、「ｙ＝１０００を入れる」といった不十分な説明で終わらず、「何に代入して、その結果、何が求まるのか」と用語を適切に用いて、解決の方法を筋道を立てて説明できるようにする。

・表からの比例定数の算出や式への代入、座標の読み取りなどにおいて、単に計算や読み取りをするだけでなく、得られた数値が事象の中（データ量が１０００ＭＢのときの動画の時間）で何を意味しているのかを捉えられるようにする。

・一度まとめた問題解決の方法を新しい問題に応用させ、「あの方法を使えば解けそうだ」とすぐに見通しが立つ体験ができる場面を設定し、解決方法を数学的に表しておくことの有用性を実感できるようにする。

○　９（３）に関連して、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるようにするために、二つの集団のデータの分布の傾向を比較してその特徴を捉え、数学的な表現を用いて判断の理由を説明する活動を取り入れる。その際、次のポイントが大切である。

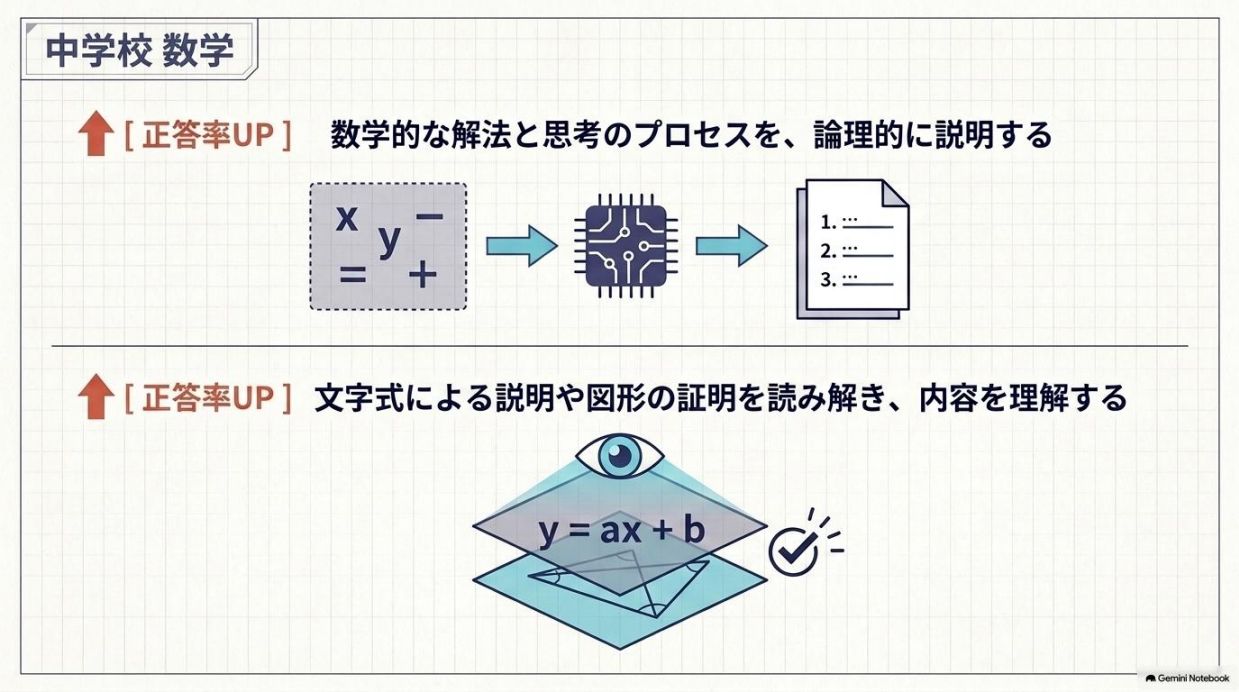
・「２つの度数分布多角形は同じような形で、位置がずれている」のように、位置関係について「位置がずれている」とした説明を取り上げ、根拠として十分であるか検討することが考えられる。その上で、「２つの度数分布多角形が同じような形で、就寝時刻が２３時より前の生徒の度数分布多角形よりも、就寝時刻が２３時以降の生徒の度数分布多角形の方が左側にある」のように根拠を明確にして説明できるようにする。

・全体の形や位置関係だけでなく、最大値や最小値、山の頂点の位置など、様々な特徴に着目して多角的に説明できるようにする。

〈生徒質問調査と数学の正答率のクロス集計に関連して〉

○　全国（国・公・私立）及び本県（公立）において、「１、２年生のときに受けた授業では、数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか」という質問に肯定的な回答をした生徒ほど、数学の正答率が高い傾向にある。

○　全国（国・公・私立）及び本県（公立）において、「１、２年生のときに受けた授業では、文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができましたか」という質問に肯定的な回答をした生徒ほど、数学の正答率が高い傾向にある。



これらのことから、単に答えを出すだけでなく、「どのように考えたか」という思考の過程を言葉で説明し合う活動を日常的に取り入れることが大切である。【小学校算数と共通】

さらに、自力で説明や証明を書かせるだけでなく、教科書の例や他者が書いた説明や証明を「じっくり読み解く活動」を重視していく。 具体的には、「どうしてこの順番で説明するのか」「なぜこの用語や条件が必要なのか」といった筋道や理由を、文の意味と合わせて丁寧に確かめていく指導が重要である。

※徳島県のクロス集計のデータ等については文部科学省国立教育政策研究所ＨＰを参照ください。

5　中学校　英語

以下の令和８年度の各正答率は、県教委が公開されている問題の正答率を平均して算出したものである。

学習指導要領の領域	（1）聞くこと	（2）読むこと	（3）話すこと［やり取り］	（4）話すこと［発表］	（5）書くこと
徳島（公立）	61.0	58.3	35.1	34.2	44.0
全国（公立）	62.8	60.0	34.9	35.8	43.1

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
徳島（公立）	48.8	47.6	
全国（公立）	49.1	48.6	

問題形式	選択式	短答式	記述式
徳島（公立）	59.6	43.3	36.2
全国（公立）	61.4	43.3	36.3

【正答率が高い上位２問】

	問題番号	問題の概要・出題の趣旨	評価の観点	問題形式	本県	全国
1	2	概　ショッピングセンターでのアナウンスを聞き、行くべき階を選択する。 趣　日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる。	思考・判断・表現	選択式	80.6%	78.5%
2	3	概　学校見学についての説明を聞き、行くべき場所を選択する。 趣　日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる。	思考・判断・表現	選択式	72.6%	76.0%

【正答率が低い下位２問】

	問題番号	問題の概要・出題の趣旨	評価の観点	問題形式	本県	全国
1	１８	概　自分のまちを訪れるのにおすすめの季節を１つ取り上げ、その理由を話す。 趣　日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる。	思考・判断・表現	口述式	19.7%	21.7%
2	１９	概　学校生活をよりよくする方法に関して聞いたことについて、考えとその理由を話す。 趣　社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかをみる。	思考・判断・表現	口述式	20.9%	23.0%

【結果分析（課題等）】

○学習指導要領の領域「聞くこと」「読むこと」「話すこと［発表］」の領域において、全国平均を下回った。

○「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の両観点において、全国平均を下回った。

○「話すこと［発表］」の領域において、自分のまちを訪れるのにおすすめの季節を１つ取り上げ、その理由を話すことに課題がある。 **〈問題番号１８に関連〉**

○「話すこと［発表］」の領域において、学校生活をよりよくする方法に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことに課題がある。 **〈問題番号１９に関連〉**

【授業改善のポイント】

〈正答率が低かった問題に関連して〉

○　１８に関連にして、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるようにするためには、次のポイントが大切である。

・「話すこと［やり取り］」の活動を充実させ、「話すこと［発表］」につなげる。

・簡単な「話すこと［発表］」の活動を繰り返す。

＜言語活動の例＞

・ＡＬＴが訪れてみたいと思ってもらえるように、自分が住んでいる地域のおすすめスポットとそこでできることなどを紹介する活動

・聞き手に自分の新たな一面を知ってもらうために、私の好きな人物とその理由について話す活動

○　１９に関連にして、聞いたことを基に自分の考えとその理由を話すことができるようにするためには、話を聞いて要点を捉えることが重要である。

＜話を聞いて要点を捉えるために考えられること＞

・文章の構成や要点を捉えるための手がかりとなる語句や表現に着目して聞く。

・話し手が最も伝えたいことだと判断した根拠を話し合う。

・話を聞く際には、キーワードを書いたり、自分の考えを書き込んだりするなど、必要に応じてメモを取りながら聞く。

＜聞いたことを基に自分の考えとその理由を話すことができるために考えられること＞

・話す内容が思い浮かぶように、自分の考えと理由を整理させる。

・発表を振り返る視点を共有し、自分の考えを再構築する。

＜言語活動の例＞

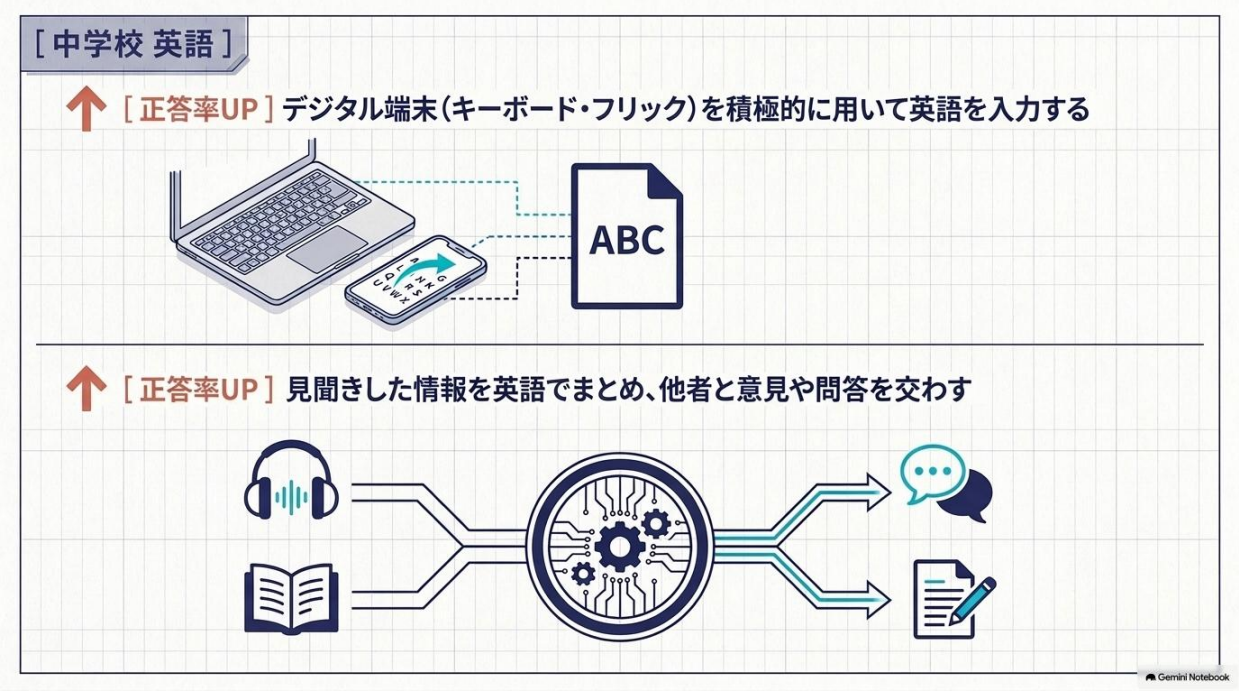
・聞いて得た知識や情報のメモを基に、内容を口頭で要約して伝えたり、自分が一番印象に残った内容や興味をもった情報を伝えたりする活動

・聞いたことについてなぜそのように考えたのか、感じたのか、簡単な理由や根拠、例示などを伝えたり質問したりする活動

〈生徒質問調査と英語の正答率のクロス集計に関連して〉

○　全国（国・公・私立）及び本県（公立）において、「１、２年生のときに受けた授業では、キーボード（画面上に表示されるキーボードやフリック入力も含む）を使って英語を書く活動をどれくらい行いましたか」という質問に頻度が高いと回答をした生徒ほど、英語の正答率が高い傾向にある。

○　全国（国・公・私立）及び本県（公立）において、「１、２年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていましたか」「１、２年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていましたか」という質問に肯定的な回答をした生徒ほど、英語の正答率が高い傾向にある。



**　これらのことから、生徒が一人一台端末等のＩＣＴ機器を効果的に活用しながら、主体的に「書くこと」の言語活動に取り組む機会を充実させていくとともに、複数の領域を効果的に関連付けた「統合的な言語活動」を行うことが、生徒のコミュニケーションを図る資質・能力を育成する上で大切である。**

※徳島県のクロス集計のデータ等については文部科学省国立教育政策研究所ＨＰを参照ください。

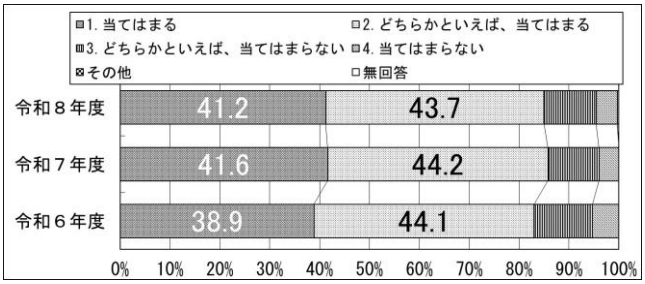
3　質問調査の結果概要

1　自己有用感・心理的安全等に関する状況

①「自分には、よいところがあると思いますか」（児童・生徒質問調査８番）に対して、肯定的な回答をした割合（選択１と２の合計）

【小学校６年生】

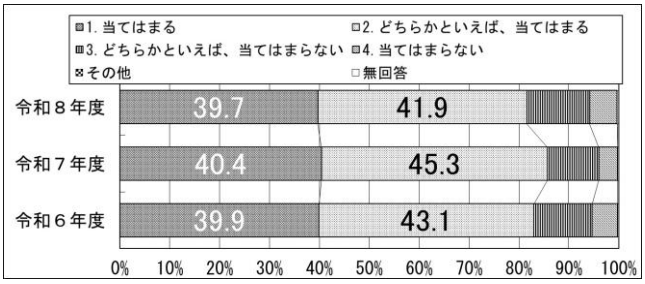
令和８年度	徳島県（公立）	全国（公立）
	84.9	85.6



※左側２項目の推移を強調

【中学校３年生】

令和８年度	徳島県（公立）	全国（公立）
	81.6	84.0

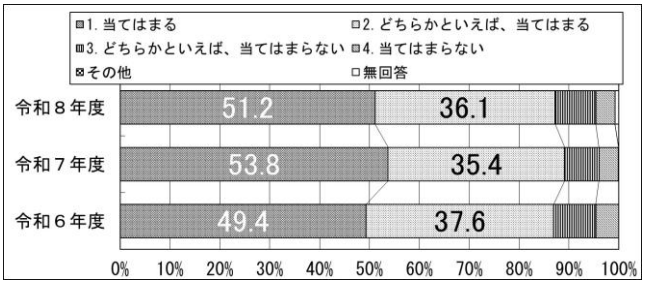


※左側２項目の推移を強調

②「学校に行くのは楽しいと思いますか」（児童・生徒質問調査１５番）に対して、肯定的な回答をした割合（選択１と２の合計）

【小学校６年生】

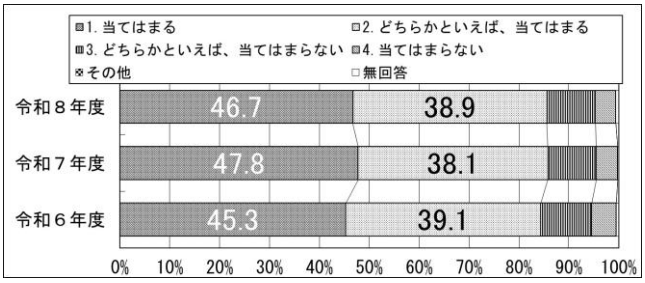
令和８年度	徳島県（公立）	全国（公立）
	87.3	85.7



※左側２項目の推移を強調

【中学校３年生】

令和８年度	徳島県（公立）	全国（公立）
	85.6	85.4



※左側２項目の推移を強調

〈自己有用感・心理的安全等に関する状況に関する質問（抜粋）〉

○「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、小学校６年生と中学校３年生ともに全国平均を下回った。

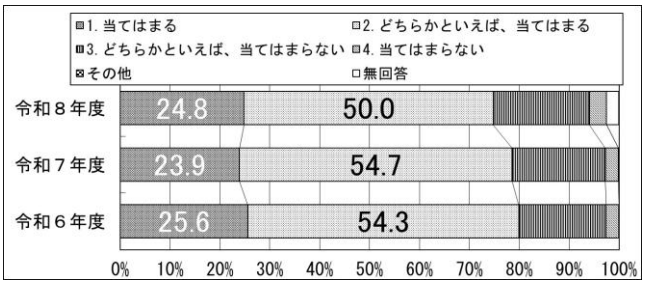
○「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、小学校６年生と中学校３年生ともに全国平均を上回った。

２　主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

①「５年生（１、２年生）のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」（児童・生徒質問調査３９番）に対して、肯定的な回答をした割合（選択１と２の合計）

【小学校６年生】

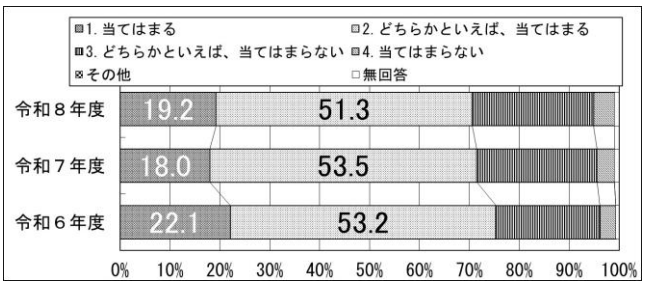
令和８年度	徳島県（公立）	全国（公立）
	74.8	77.6



※左側２項目の推移を強調

【中学校３年生】

令和８年度	徳島県（公立）	全国（公立）
	70.5	78.8

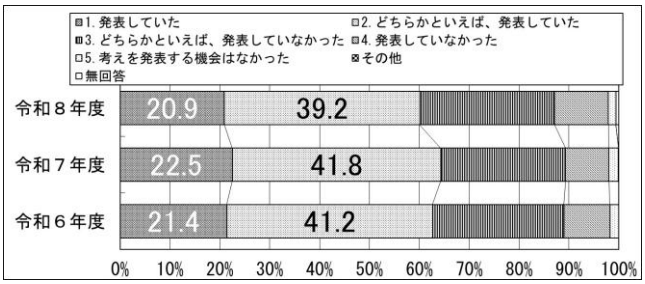


※左側２項目の推移を強調

②－１「５年生（１、２年生）のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」（児童・生徒質問調査３８番）に対して、肯定的な回答をした割合（選択１と２の合計）

【小学校６年生】

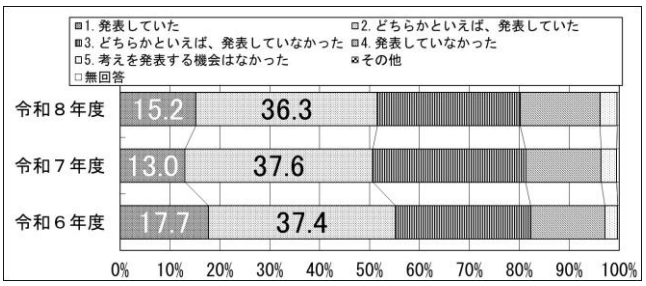
令和８年度	徳島県（公立）	全国（公立）
	60.1	66.4



※左側２項目の推移を強調

【中学校３年生】

令和８年度	徳島県（公立）	全国（公立）
	51.5	65.5

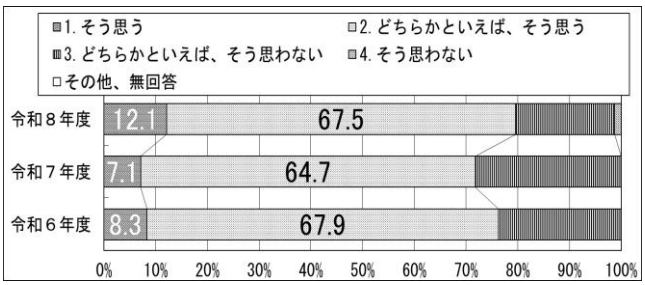


※左側２項目の推移を強調

②－２「児童（生徒）は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができている」（小学校・中学校質問調査２７番）に対して、肯定的な回答をした割合（選択１と２の合計）

【小学校】

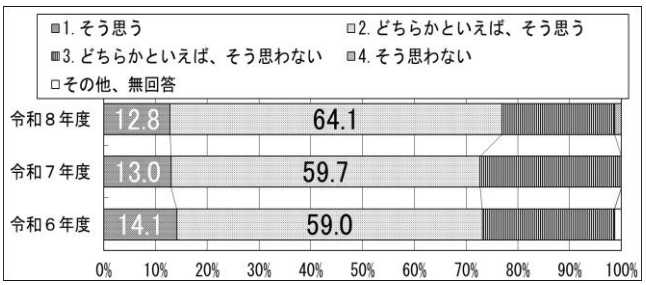
令和８年度	徳島県（公立）	全国（公立）
	87.3	88.1



※左側２項目の推移を強調

【中学校】

令和８年度	徳島県（公立）	全国（公立）
	76.9	81.4

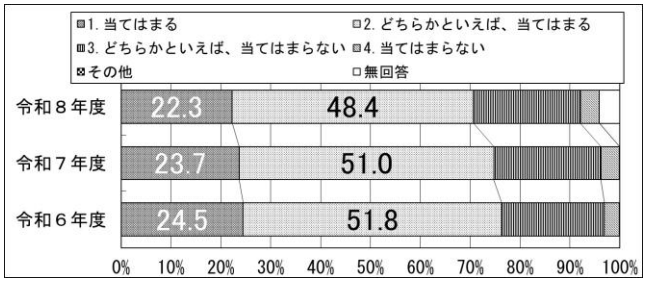


※左側２項目の推移を強調

③「５年生（１、２年生）のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」（児童・生徒質問調査４０番）に対して、肯定的な回答をした割合（選択１と２の合計）

【小学校６年生】

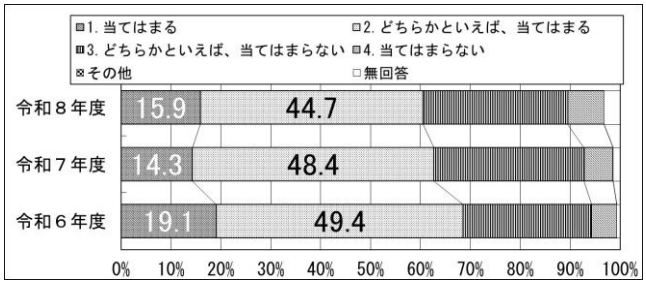
令和８年度	徳島県（公立）	全国（公立）
	70.7	73.4



※左側２項目の推移を強調

【中学校３年生】

令和８年度	徳島県（公立）	全国（公立）
	60.6	70.8



※左側２項目の推移を強調

〈主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況に関する質問（抜粋）〉

○「５年生（１、２年生）のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、小学校６年生と中学校３年生ともに全国平均を下回った。

○「５年生（１、２年生）のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、小学校６年生と中学校３年生ともに全国平均を下回った。

○「５年生（１、２年生）のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、小学校６年生と中学校３年生ともに全国平均を下回った。

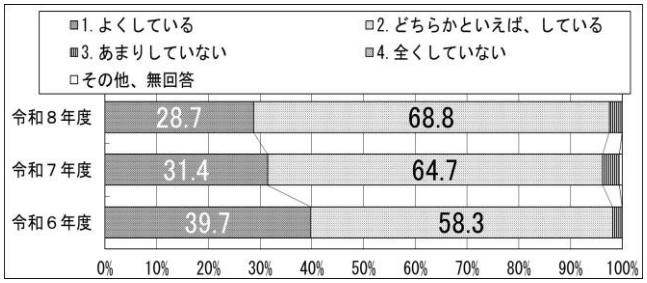
加えて、この質問に対して肯定的な回答をした割合（②－１）とこれに関連した学校質問「児童（生徒）は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができている」に対して肯定的な回答をした割合（②－２）との差は、
児童質問では27.2%（全国は21.7%）、生徒質問では25.4%（全国は15.9%）であった。
このことから、学校側が「工夫して発表を行わせることができている」と捉えている一方で、児童生徒自身は「十分に工夫して伝えられた」という実感や達成感を得るまでに至っていない可能性が考えられる。

３　教職員の資質向上に関する状況

「児童（生徒）の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立している」（小学校・中学校質問調査１７番）に対して、肯定的な回答をした割合（選択１と２の合計）

【小学校】

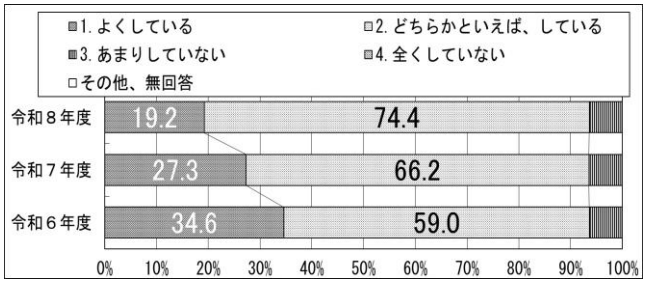
令和８年度	徳島県（公立）	全国（公立）
	97.5	97.3



※左側２項目の推移を強調

【中学校】

令和８年度	徳島県（公立）	全国（公立）
	93.6	95.9



※左側２項目の推移を強調

〈教職員の資質向上に関する状況に関する質問（抜粋）〉

○「児童（生徒）の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立している」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、小学校は全国平均を上回り、中学校は全国平均を下回った。

４　今後の学習指導等に向けて

○　表現の工夫を実感させる指導と振り返りの充実

単に発表の機会を確保するだけでなく、「どのような資料を用意すれば効果的か」「どのような構成で伝えれば納得感が高まるか」といった具体的な評価基準（ルーブリックなど）をあらかじめ共有することが有効である。また、授業内に相互評価や自己評価（振り返り）の時間を明確に位置付け、「自分の考えが相手に伝わった」という実感や手応えを自覚させる指導の充実を図る。

○「主体的・対話的で深い学び」を通じた自己有用感の育成

学習した知識や技能を生かして課題を解決したり、自分の考えをまとめたりする発展的な学びの活動を意図的に設定する。他者との対話や協働的な課題解決を通して自分の考えが深まる体験を重ねさせることで、学習内容の定着とともに「自分にはよいところがある」という自己有用感や学びへの自信を育む。

○　データに基づくＲＰＤＣＡサイクルの確立と授業改善の共有

各学校においては、本調査をはじめとする各種データや児童生徒の実態を客観的に分析（R）し、学校全体の教育課程の編成（P）・実施（D）・評価（C）・改善（A）といったＲＰＤＣＡサイクルを確実に組織へと還元していくことが重要である。教員間の見取りの基準を揃えるとともに、教員の成果感と児童生徒の実感とのズレを埋める授業改善アプローチを学校全体で共有・実践していく。

※徳島県における質問調査等の結果については文部科学省国立教育政策研究所ＨＰを参照ください。